

千葉県南房総方言と江戸ことばについての一考察

—オイネーと「おへねへ」—

海 治 美 香

1. はじめに

千葉県長生郡白子町へ方言調査に向いた時、オイネーということばを初めて耳にした。当該地域の人々は、頻繁にこのことばを口にするが、現代共通語に置き換えると複数の意味が生じる、訳しにくい方言である。

オイネーは、おもに千葉県南部、すなわち南房総（安房・上総）地域にまとまって分布している（大橋1976）。一方で、江戸時代（近世期）の文学作品に使われている、「おへねへ」ということばがある。本稿は、筆者の調査資料と近世期文学作品からの文献資料を対比させ、千葉県のオイネーの意味と、「おへねへ」の意味を分析し、両者の関係を考えてようとする試みである。南房総方言と江戸ことばとの関係を考える一助にでもなれば幸いである。

なお、カタカナ表記は方言の音声を簡略に示したものである。

2. 千葉県南房総方言のオイネーに関する先行研究

(1) 大橋勝男「関東地方域方言事象分布地図」

オイネー（OINEEなどとも表す）に関する分布図（Map5～8）を見ると、OENAI類(OE-NEE, OINAI, OINEEを含む)が、千葉県南房総地域（以前の安房・上総国）にまとまった分布を示す。県外では、東京都多摩市・八王子市に計2地点ある他、埼玉、群馬、栃木の各県に数地点ずつ、茨城県西部にややまとまった分布を示す。Map5～8を通して千葉県内においてはほぼ同じような分布をしている。県外では、Map6「暑くてしかたがない。」に比べ、Map8「行かなくてはならない。」では、茨城、群馬、栃木では分布が見られない。なお、東京の2地点はMap6で「暑くてしかたがない」の下線部について「オエネーなどとは言いませんか。」と質問した結果である。他の地図では、この2地点にOENAI類の分布がないことから、東京都の2地点の分布は理解語であると見なされる。

質問文

Map5 「暑くてしかたがない。」

Map6 「暑くてしかたがない。」(OENAIという言い方の存否)

Map7 「肩がいたくてしかたがない。」

Map8 「行かなくてはならない。」

また、千葉県北部の下総地域にまったく分布がない点が、大橋1990で強調されている。各地図のOENAI類の分布解釈を抜粋する。

房総域の場合、言語・文化等の伝播は北より南下するのが一般であり、その逆は考えにくい。…したがって、これは、新興のものというよりは、元来もっと広く分布していたものが、この地域に残ったと考えるべきであろう。(66, 67 頁)

(2) 千葉県長生郡白子町「白子風土記」

第8章 二. 方言・訛語

仕方がない・手に負えない・だめ=おいねえ(他に仕方がなければ、それでよい=「おいねけら、そっでいい」、私には手に負えない=「おがんにゃおいねえ」、そんなことをしては駄目だ=「そんなことをしてはおいねえ」などと使い分ける。) 224頁

(3) 徳川宗賢監修「日本方言大辞典」

「おえない」は7つに意味分けされている。

- ①手に余る。どうしようもない。困る。
- ②不可能だ。
- ③無益だ。役に立たない。がちが明かない。つまらない。
- ④してはいけない。禁ずる。だめだ。
- ⑤するには及ばない。必要がない。
- ⑥しなければならない。
- ⑦失敗した時に発する語。

千葉県の分布は、①②③④⑥の5つにまたがって報告されている。そのうち、②と⑥に安房郡、③と④に市原郡が重ねて記載されている。県外の分布を概観すると、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、神奈川(以上①)、島根、岡山、徳島、香川(以上②)、鳥取、新潟、静岡、島根、岡山、香川(以上③)、埼玉、静岡、岡山、香川、茨城(以上④)、茨城(⑦)となっており、静岡から宮城・山形までの東日本方面と、岡山、島根、徳島、香川の西日本方面に、2つの大きなまとまりがあるようだ。語形は、すべてオエナイあるいはオエヌから変化したものと考えてよいと思われる。その他の詳細は省略する。

以上の先行研究から、オイネーの分布は千葉県のみではないが、千葉県の南房地域にかなりまとまっており、また、その意味も複数あてられていることがわかった。①には、談義本『根無草ねむくさ』の引用がされている(後述)。そこで本稿では、千葉県南房総方言のオイネーと、江戸時代の文学作品に出てくる「おへねへ」との関係をもう少し詳しく見ることにしたい。

3. 文献上の「おへねへ」

『日本国語大辞典』や『古語大辞典』では、「おえない」「おいない」あるいは「おへない」は、「手に負えない」の意味であり、その変化した形として説明されている。先の

辞書に引用されている文献資料、そして日本古典文学大系の索引記載の作品のほとんどは近世期の作品であった。なお、出典はすべて日本古典文学大系に拠った。頭注はそのまま引用し、筆者が頭注を参考にしながら、適宜説明・意識を施した。漢字や仮名遣いについては、一部を現代語に改めてある。踊り字は\／で表す。

(1) 天竺浪人(平賀源内)作「根南志具佐 ぬいけ」宝暦13(1763)年

…泰山王申されけるは、…「御使を遣(は)されたりとも、彼国には…おへない親父が沢山に守り居れば、中\／表立(っ)ての御使にては存(じ)もよらず。…

頭注 おへない：手におえない。おっかない。 親父：うるさ方。

泰山王が言うには、…地獄の使いも手におえない、うるさ方(菊之丞の取り巻き)が守っているの、表だって使いを出すなどとんでもないことだ。…

(2) 十返舎一九作「東海道中膝栗毛」享和3(1803)年

てい主「コリヤ摺鉢をつかまえてくれる。エ、そつもつちやアすられないハ。おへないひやうたくれめだ 女房「アニこんたがひやうたくれだ てい主「イヤこのあまア…

頭注 おへないひやうたくれめだ：手におえない馬鹿者だ。

女房の手際の悪さに、「手におえない馬鹿者だ」と言うと、「何、お前が馬鹿者だ」とやり返される…

(3) 式亭三馬作「浮世風呂」文化6(1809)年

①…先「ヤ、何もいふな人ではないはつ。ソレ、どこへ行く 後「こゝへ逃^{にげ}る 源「ア、わるい\／。そう逃^{にげ}ちやアをへねへ 太「ソレ、びたりだ …

②…イエサ、もうネ、どなたもおやかましからうが、可愛くもなんともござりません。ホンニ\／おえねへなまくら者で、にくゝてなりません。

頭注 をへねへ：おえない。始末がわるい。しょうがない。

午後の銭湯の光景。場所は江戸。①二階で5、6人が集まって将棋を指している。源四郎はのぞき込んで、後兵へに「そう逃げてはだめだ」と言い、同じく見物の太吉も口を出す。(見物の人たちは、後兵への方に入れ知恵している。)②太吉の母親が迎えに来る。「……息子を可愛いとも何とも思っていません。本当にしょうがないなまくら者で、憎らしくてなりません。」

(4) 為永春水作「春色梅児誉美^{しんしやくらめこゑ}」天保3(1832)年

①…米八はうしろから背中をひどくつめり、…丹次郎はにがわらひ 丹「おへねへ気がひだ よね「ア、わつちやア気違さト…

頭注 おへねへ：手におえない。始末の悪い。

②…仇「これほどつくす私が実が、おまへには知れないのかへ。エ、くやしいト喰つく 丹「アイタ、、、、これさ、堪忍しねへナ。おへねへ気違だア 仇「ア、私は気違サ。…サア、乱心らんしんを直しておくれ、サア、…

頭注 おへねへ：手におえない。しょうのない。

筋立て 場所は江戸深川、吉原の花街界限。丹次郎という不遇な境涯に落ちた色男をめぐる、許嫁（お長）と二人の芸者（米八よねはちと仇吉あだちち）などが実意と意気地を尽してめでたく世に出すという話（神保五弥編『近世日本文学史』1978.02有斐閣双書709頁より）。

①…階段を下りようとする丹次郎の背中を米八がつねり、睨む。憎まれ口をきく米八に、丹次郎は苦笑いして「手におえない気違いだ。」と言え、米八は「ああ、私は気違いだよ」と言い返す…②仇吉が恨みごとを言え、俺だって我慢しているのだと丹次郎。あまりの言いように、仇吉は丹次郎に噛みつく。「あいたたたた…、堪忍しなよ。しょうのない気違いだ。」「ああ、私は気違いさ。…さあ、気違いを直しておくれ、さあ、…」

(5) 為永春水作「春色辰巳園しゅんしよくたつものその」天保4～6(1833～85)年

①…仇吉は此人を米八が使と思ひ…仇「ヲイ、…そう申しておくれト米八が文を仇名やの使にわたし 仇「おいねへべらぼうだアト独言。…

頭注 おいねへ：「おへない」の訛。手におえない。どうもならぬ。

②…しばらく盃ごとありて、丹次郎は雨戸をあけ 丹「ヲヤ、大変につもつたぜ、こりやアおるねへ」…

頭注 おるねへ：「おへない」の訛。処置がない。手におえない。

「春色梅児誉美」の続編につき、設定および登場人物は(4)に同じ。

①米八からの果たし状を持って、使いの者が仇吉のもとへやってきた。仇吉は承知した旨を言渡し、「手におえないべらぼうだア」と独り言。②丹次郎が仇吉の家にやって来て、互いに酒を酌み交わす。丹次郎は雨戸を開けてみて、「おやおや、すごくたくさん（雪が）積もったぜ。こりゃあ、どうしようもない。」

おもに滑稽本や人情本などに見られる「おへねへ」は、もっぱら口語的に使われている。引用の範囲で言えば、場所設定は「東海道中膝栗毛」の丸子（静岡市）以外はすべて江戸である。近世期に、少なくとも江戸から静岡までの範囲で、「おえねへ」「おいねへ」が、庶民のことばとして使われていたと考えて良いと思う。意味については、それぞれの頭注に、「手におえない」の他、文脈に合わせて他の意味が並べて書かれている。8つの用例のうち、6例までは人を形容することばである。

おへない親父(1) 泰山王⇒うるさ方(菊之丞の取り巻き連中)

おへないひやうたくれめ(2) 茶店の亭主⇒女房

おえねへなまくら者(3-②) 母親⇒息子(太吉)

おへねへ氣ちがひ(4-①) 丹次郎⇒米八(丹次郎の愛人その1)

おへねへ氣違(4-②) 丹次郎⇒仇吉(丹次郎の愛人その2)

おいねへべらぼう(5-①) 仇吉⇒米八

このように、後続する「ひやうたくれめ」「なまくら者」「氣違」「べらぼう」をさらに強める意味であることは間違いなさそうである。母親ができの悪い息子に、あるいは男が嫉妬心から癪癪を起こす愛人に使う例が見られることから、頭注にもあるとおり、「手におえない」「始末の悪い」「どうしようもない」などの現代共通語訳が当てはまると考えられる。その他の例は「浮世風呂」の①と、「春色辰巳園」の②である。

そう逃^ニちやアをへねへ(3-①)

こりやアおるねへ(5-②)

上の2例は言い切る形で使われている。(3-①)は、将棋の一手に対して「をへねへ」を言っていると解釈できる。(5-②)は、大雪(が降り積もったこと)に対して「おるねへ」と言っている。どちらも困った事態を予想して発話されたものであり、「手におえない」の現代語訳でおおむねよいと思われるが、「浮世風呂」①の例は「(そう逃げては)だめだ」、「辰巳園」②の例は「(この大雪では)どうしようもない」の方がより自然な訳に思われる。

今回調べた限りでは、「おへねへ」の用法は、人を形容する名詞にかかる場合と言い切る場合の2つがあって、それぞれよくない人や事柄について、「手におえない」という意味を表す。用例の限りでは、言い切る場合は対象がもっぱらよくない事態についてであり、「だめだ」あるいは「どうしようもない」のニュアンスをとまなう。

4 千葉県方言オイネーの調査および結果

4-1. 調査の目的および調査票

2の先行研究から、千葉県方言のオイネーは、南房総地域にまとまった分布をもち、複数の意味を担っていることがわかった。また、3の文献上の「おへねへ」を見たところ、「手におえない」という意味を中心に、人やある事柄に対して使われていた。以上をふまえて、千葉県のオイネーの分布と意味分担の差を明らかにし、文献上の「おへねへ」の意味・用法と比較することを目的に、調査を行った。今回は、大橋1976や『白子風土記』の用例などを参考にして、オイネーを「しかたがない、どうしようもない」と「してはいけない、だめ」の2つの意味の枠組みでとらえることにし、意味・用法からさらに分類して、方言訳を求める調査票を作成した。質問文は次の通りである。

1. 暑くて しかたがない。
2. いまさら 後悔したって しかたがない。
3. あそこで 遊んでは ならない。
4. 明日、どうしても 行かなければ ならない。

1と2は「許容」、3と4は「禁止」の心的態度を表していて、一見相反する意味を持つことになる。また、「しかたがない」の意味を、例えば『大辞林』（三省堂）では、

①する手段、方法がない。どうしようもならない。処置に困る。「後悔しても——い」「散らかし放題で——い人ね」②我慢できない。「腹がへって——い」の2つに分けている。②の「我慢できない」は、「耐えがたいが、解決する手だてがない」ことから、このような意味にまで解釈できるということだろう。「しかたがない」を他のことばで言い換えようとすれば、ある程度の幅があることが、辞書の記述からもうかがえる。そのため、1のように「困った」というニュアンスが強く出るものと、2のように「無駄だ」という諦めのニュアンスが強く出るものをそれぞれ用意した。「ならない」は、現代共通語の用法としては、「～してはだめだ」という禁止を表すものと、二重否定文として「～しなければだめだ」という意味を表すものを用意した。なお、4は相手に言いかける文として聞いた。

4-2. 調査結果

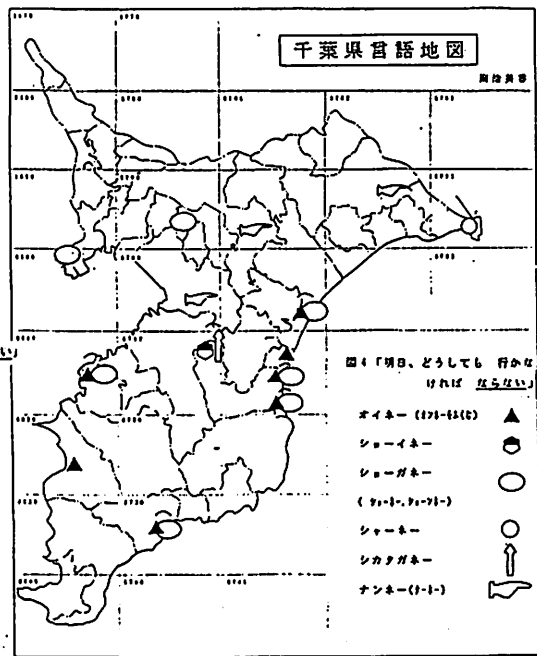
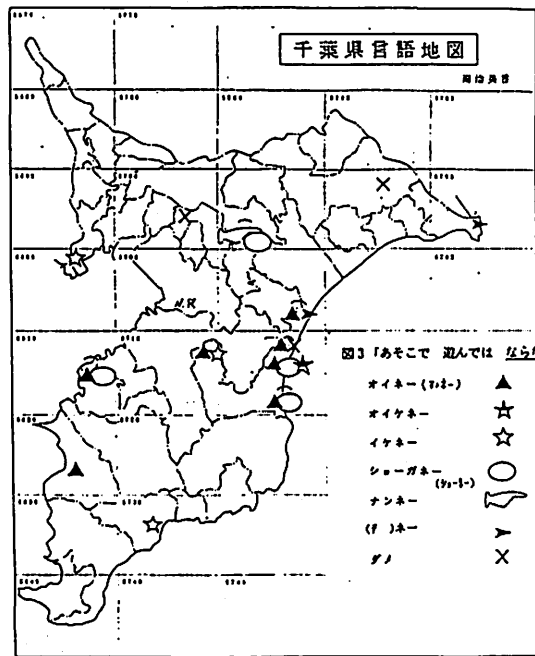
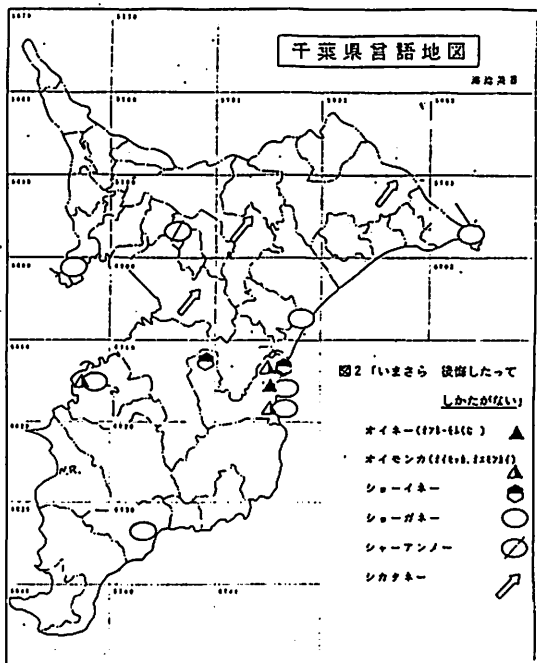
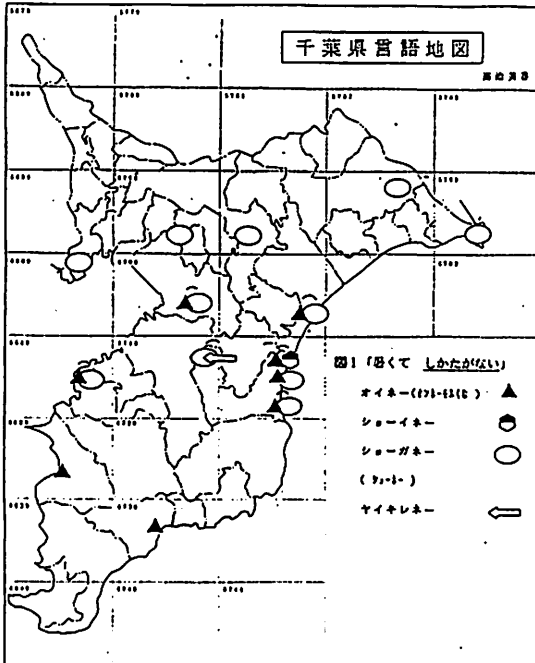
話者は、1989年当時に60歳以上で、その土地生え抜きの男女である。調査地点および調査結果は、図1～図6を参照されたい。

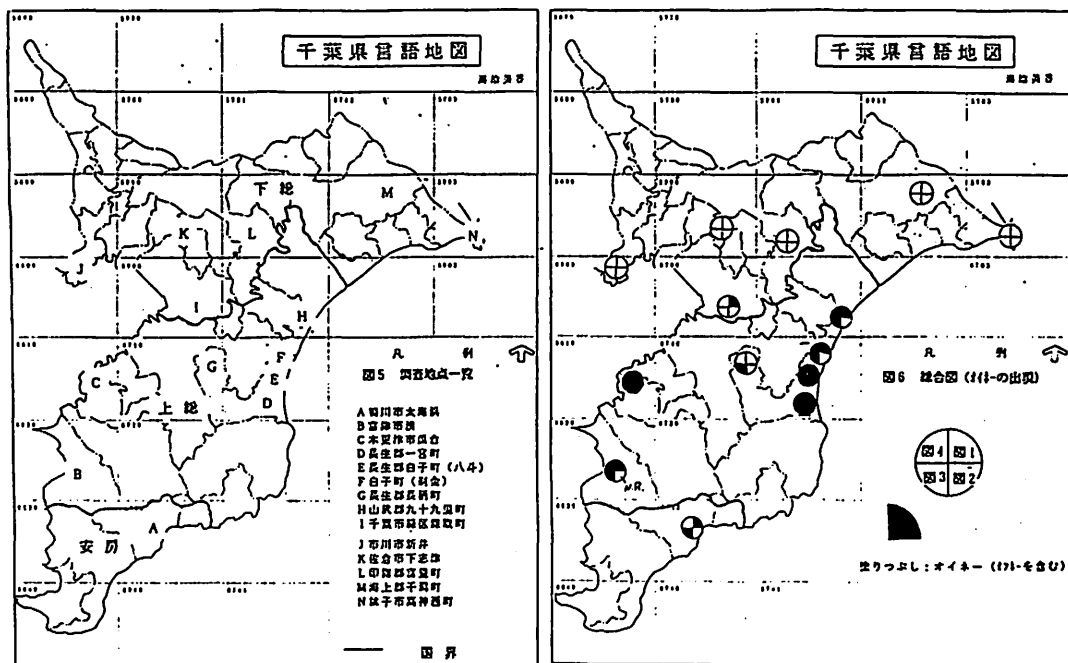
図1. 「暑くて しかたがない」においては、下総地域にショーガネー類、南房総地域にオイネー類がまとまって分布する。長生郡白子町剃金そりかみでは、混交形と思われるショーイネーがある。オイネー類は、九十九里町がオンネーの他は皆オイネーという語形である。富津市や鴨川市ではショーガネー類との併用であり、ショーガネーが北からオイネーを浸食しているのがわかる。

図2. 「今更 後悔したってしかたがない」においては、下総地域にショーガネー類と、シャーアンメー、シカタネーが分布する。シカタネーが干潟町、佐倉市、千葉市の3地点に分布している。シカタネーは「しかたがない」の変化形と考えられる。ショーガネーは「しようがない」、シャーアンメーは「しようがあるまい」の変化形と考えられる。南房総地域の分布を見ると、白子町八斗はんと以外は、オイモッカ（一宮町・白子町剃金）、オエモンカイ（木更津市瓜倉）がある。長柄町ながらまちと白子町剃金の2地点にショーイネーがある。鴨川市がショーガネーのみで、ショーガネーとの併用は3地点あり、図1に比べてショーガネーの分布が南下している。

図3. 「あそこで 遊んでは ならない」においては、下総地域ではショーガネー類は姿を消して、ダメ、イケネー、ネー（アソブデネードなど）、ナンネー、ショーネーなどがあって、分布がまとまらない。南房総地域の分布を見ると、鴨川市を除いてオイネー類が分布する。併用語形として、下総地域では見られないショーガネーが3地点ある。イケネー、ダメ、ネーは南房総地域にも併用語形としての分布が見られる。

図4. 「明日、どうしても 行かなければ ならない」においては、下総地域はショーガ





ネーとナンネー・ナーネー（ナネ：千葉市緑区鎌取町）、シャーネー（銚子市高神西町）が分布する。南房総地域はおおむねオイネーが分布する。ショーガネーとの併用が多い。長柄町は、ショーイネーとシカタガネーである。

4-3. 調査結果のまとめ

図1～4を通して、下総と上総の境界線(図5参照)以南にオイネー類がまとまって分布する。G地点で「オイネーは古い言葉」という報告があった。南部では、オイネーはショーガネーなどとの併用が多く、県の中央部にショーイネーという、オイネーとショーガネーの混交形が見られる。よってオイネーが古く、北部(下総)からショーガネーが南下している様子を読み取れる。また、図2に分布するオイモッカ、オエモンカイは「おえるものか」の変化形であろうか(注1)。図3のショーガネーは、「(しては)ならない」という禁止の意味で回答を得たが、南房総地域でオイネーに全て取って代わろうとしているか、もしくはオイネーと意味を分担しているのかもしれない(注2)。図6は、図1～4をまとめて、オイネーの意味分担の地域差を見るためのものである。その結果、オイネーは上総地域では、1～4の下線部の意味を担っているものの、2、4、3の順で意味領域を狭めていると解釈できる。

5. まとめ

これまで見てきたように、南房総方言のオイネーも江戸ことばの「おへねへ」も、とも

に「手におえない、しかたがない、どうしようもない」といった現代共通語の意味が中心であるが、述部に用いた場合、「だめだ」という軽い禁止の意味になることがある。このような意味の類似性と音変化傾向（当該地域では、「声」がコイ、また「何もない」がアンモネーと発音されるというように、イとエの交替・混同現象や語中のイの撥音化傾向がある）を考え、オイネーと「おへねへ」は、同語源であるか、もしくはオイネーが「おへねへ」から分かれ出たことばであろうと推察できる。

6. 考察と今後の課題

先述のように、「手におえない、しかたがない、どうしようもない」と「だめだ」では、前者は「許容」、後者は「禁止」という相反した心的態度を表す（注3）。したがって、オイネーは相反する意味を合わせ持つかのように思われる。しかし、話者が、相手あるいは指す事柄に自分も関与しているという前提を与えた場合、「自分の手にはおえないよ。」と言うことは、「手におえないようなことをやったら知らないよ。」という婉曲な禁止（すなわち、悪いことが起きる予告・警告）を表すことにもなるだろう。3の「浮世風呂」の②の例もあることから、両方の意味を包含するような、さらに大きな枠組でのとらえ方ができそうに思われる（下図）。このことを証明するためには、「話者が、相手あるいは指す事柄に自分も関与しているという前提」を持っているか否かを調べることを目的とした、調査票による調査が必要である。

オイネーの
意味（私案）

オイネー：（前提）本来、話者も関与して
（意味）話者の手にはおえない

↓

今の状態を中断しない限り、
関わりたくないよ。
（私が関わらないと、困るだろう。）

↓

やめたほうがいいよ。禁止

↓

いまさら話者が関与しても、なんら
事態は改善しないだろう。

↓

どうしようもない。しかたがない。

許容

今回の調査では、オイネーの意味の一部をとらえたに過ぎない。先行研究を踏まえ、周辺の意味領域にも踏み込んだ幅広い調査を行い、オイネーの持つ意味をできる限り正確にとらえなければならない。ショーガネーやシカタネーなどとの意味の分担の可能性を考え、よりきめ細かな調査票による調査をしなければならないと思う。その一方で、近世期の小説を中心に「おへねへ」の用例をつぶさに見ていくことも必要である。

今回の調査票を作成するにあたっては、「オイネーヤツ」に見られるような人を形容する

用法は少ないと予想されたので、調査の対象とはしなかった。今回は、この点についても調べる必要がある。以上、合わせて今後の課題としたい。

注1 オイモッカ、オエモンカイなどと変化するのであれば、「負う」という動詞と関連している可能性を調査する必要があるのではないかと、沖裕子先生より御指摘・御教示いただいた。「負える」と「負う」についての検討が足りなかった点についても、今後の課題としたい。

注2 この点は、荻野綱男先生より御指摘いただいた。オイネーとショーガネーの意味の違いが明確になるような条件設定をする工夫が必要だったと思う。

注3 渋谷1993によれば、江戸語の「おへねへ」はもともとは能力可能（の否定）を表していたが、その後、「だめだ」といった評価的な意味を獲得した。その背景には、①「おえる」は「おう+得る」の音変化により生じた形式であり、「得る」は主に心情・能力可能を表わしたこと、②それ以前に「だめだ」という評価的な意味を漠然とあらわしていた「どふもならねへ」が、やはりもとは能力可能を表わしていたことに影響を受けて機能を分担したという、2つの理由によるものである旨が書かれている(100,143-4頁)。

本稿は、第219回都立大学方言学会での口頭発表をもとに加筆修正したものである。注記で記した以外にも、諸先生方よりご教示いただきました。また、原稿執筆の際には、小林賢次先生と篠崎晃一先生のお手を煩わせました。心より御礼申し上げます。

参考文献

大橋勝男「関東地方方言事象分布地図」(1976.02 桜楓社)

大橋勝男「関東地方の方言についての方言地理学的研究」

第二巻〔表現法事象分布論篇〕(1990.02 桜楓社)

千葉県長生郡白子町「白子風土記」(1989.03.23 白子風土記編纂委員会)

徳川宗賢監修「日本方言大辞典」(1989.03.01 小学館)

静岡方言研究会・静岡大学方言研究会「図説静岡方言辞典」

日本古典文学大系 48, 54, 55, 62, 63, 64 (岩波書店)

倉持保男編「方言小辞典」(1988.05.25 東京堂出版)

渋谷勝己「日本語可能表現の諸相と発展」(1993.02 大阪大学文学部紀要
第33巻第1分冊)

「日本国語大辞典」(小学館)、「古語大辞典」(小学館)、「新明解国語辞典第二版」(三省堂)、「国語慣用句大辞典」(東京堂出版)他

(うみじ みか・東京都立大学大学院生)